



【巻頭特集】

交通安全キャンペーン 出会いふれあいフェア2018  
バイクであいたいパレード

# 鈴鹿とバイクの魅力を 全国へ発信!

全国から集結したバイクが鈴鹿市内を走行する「バイクであいたいパレード」は、鈴鹿8時間耐久ロードレースの前夜祭と連携した、日本最大級の交通安全パレードです。イベントがスタートして、20年。節目を迎えるパレードの実行委員に、開催にかける思いを取材しました。



バイクであいたいパレードのイメージキャラクター、「E/G/レマン」。交通安全とバイクの楽しさを伝えるため、ステージなどで活動しています



多くの見学者に見守られながら鈴鹿ハンターの特設会場をスタート



パレードの開始前に行う交通安全宣言。平成19年は、クリスティー・チャリさんをゲストライダーとして迎えました



東日本大震災が起こった平成23年には、女性部によるチャリティーバザーも実施。多くの義援金が集まりました



平成24年は市制70周年、鈴鹿サーキット誕生50周年、青年部設立35周年が重なった節目の年。「挑戦」をテーマに過去最高となる850台のバイクが参加しました



参加ライダーは交通安全ビブスを着用し、交通安全の啓蒙活動を行います。「未来の鈴鹿へ レディーGO!」と題し、女性のライダー獲得を目指した平成26年はピンクのビブスを着用しました



パレードには地元警察の協力も不可欠。コースの交通規制や信号の操作などを行っています

郵便局や銀行などの「働くバイク」も参加。普段は見落としてしまいがちな、住民の生活を支えるバイクにも注目が集まります

バイクは危険と思われるがちですが、正しい装備をしてマナーを守れば安全で楽しい乗り物であると知ってもらいたい

## 全国からライダーが集まる 日本最大級のバイクパレード

沿道に集まった人々の声援を受けながら、全国から集結したライダーが鈴鹿サーキット国際レーシングコースを目指す「バイクであいたいパレード」。地域の夏の風物詩である、鈴鹿8時間耐久ロードレース（鈴鹿8耐）の前夜祭と連携して行われます。

鈴鹿8耐は国内外から多くの人が押し寄せる一大イベント。モータースポーツのまち鈴鹿市を全国にPRする機会として、パレードが企画されました。「初開催は平成11年。商業の活性化に向けた仕掛けづくりがきっかけです」と当時青年部会長を務めていた伊藤素近さん。

実行委員会を立ち上げ、行政との交渉や地域住民への説明に奔走しました。バイク専門誌やチラシを利用してライダーを募集。なかなか応募がこずに苦労しましたが、パレード当日には約300台が集まりました。「初回は見物客もまばらで、パレードの交通規制に対する苦情もありました」と伊藤さんは振り返ります。その後は近隣住民に向けた広報活動にも注力。回を重ねるごとに、知名度が上がり、地域の理解と協力

を得られるようになったそうです。

参加ライダーや見物客も増加しています。昨年度は約800台が集結。参加者は約2000人の応募から抽選で選出しています。沿道には約3500人が応援にかけつけるなど、現在では鈴鹿8耐と合わせ、毎年の恒例イベントとなるまでに成長しました。

## 鈴鹿の魅力を伝えるため まちを楽しむイベントを実施

7月28日開催の今年は、一般ライダーに加え、地元郵便局や銀行などの業務用バイクなど、多種多様なバイク約800台が集まります。参加者代表による交通安全宣言が行われたのち、警察車両、本田技研工業株式会社鈴鹿製作所インストラクターの先導で鈴鹿ハンター特設会場を出発。鈴鹿サーキットまで約3.5kmをパレードし、国際レーシングコースを走ります。

パレードコースには例年同様多数ののぼり旗を設置。今年のバイクパレード委員長を務める加藤晋さんは「栃木県から鹿児島県まで、全国からライダーが集まります。あたたかい声援を送って下さい」と呼びかけます。

近年は、女性の参加者も増加。平

成26年に、女性初となるバイクパレード委員長を務めた中島みみさんは、「平成22年以降は、市内の飲食店を巡るスタンプリーや観光マップの発行など、さまざまな取り組みを実施してきました」と話します。

今年も2000円の参加費から、1000円を市内の協力店舗で使える金券として参加者に還元。全国から集まった人々に、鈴鹿のまちを楽しんでもらいたいと考えました。

第20回開催を記念し、パレード特設会場では10時から13時まで「キッズバイクチャレンジ」を実施。親子で参加できる、子どもバイク教室も実施します。青年部副会長、望月卓透さんは、「地域の親子に、バイクの素晴らしさや安全性を体感してもらおうが目的です」とほほ笑みます。さらに、子ども向け企画として、17時から19時までパレードコースの沿道で子ども縁日も実施予定です。

## 楽しさを発信するからこそ 正しい運転で安全なパレードを

走行中に感じる日差しや風、地面からの振動など、他の乗り物に比べて五感が刺激されるバイク。「仲間同士で同じ目的地に向かってツーリングする一体感には、自動車とは一味違う楽しさがあります」と加藤さん

はほほ笑みます。

その一方で、パレードの重要な目的は、バイクの安全性をPRすること。「平成29年版交通安全白書」によると、平成28年の二輪車事故での死者数は460人。死亡率は1.48パーセントと、自動車の0.32パーセントを上回っています。バイク対自動車の事故では、バイクの運転手が大ケガを負う場合も少なくありません。

パレードでは、長袖長ズボンの着用を徹底。胸や腹部、脊椎を保護するプロテクターの周知に努めています。「バイクは危険と思われるがちですが、正しい装備をしてマナーを守れば安全で楽しい乗り物であると知ってもらいたい」と中島さん。

「20年も続けてこられたのは、さまざまな協賛企業や地域のみなさんの協力があったからです。バイクの魅力伝えるためのものだからこそ、どんなイベントよりも安全でなければいけません」と青年部会長の矢田純一さん。「これからも地域に長く愛されるパレードを目指していきたい」と語ってくれました。

今年のパレードにも、全国各地から数多くのライダーが訪れます。まずは沿道で応援を、その後は参加者として、パレードを楽しんでみてはいかがでしょうか。



パレードを主催する鈴鹿商工会議所青年部とOBOGの皆さん。右から、平成26年度バイクパレード委員長を務めた中島みみさん、第1回開催時の青年部会長だった伊藤素近さん、第17代青年部会長の森下晃さん、青年部会長の矢田純一さん、青年部副会長の望月卓透さん、本年度バイクパレード委員長の加藤晋さん

### information

交通安全キャンペーン 出会いふれあいフェア2018  
バイクであいたいパレード

7/28 [土] 18:15スタート予定

パレード特設会場:鈴鹿ハンター特設会場  
(鈴鹿市算所2-5-1)  
主催:鈴鹿商工会議所青年部